

未 来 館

“自分らしさ”を生かした未来へ
NEWS

2008.7
No. **32**

特 集

未来館 国際シンポジウム

世界の“大使が語る、日本の今”

～もっと知ろう世界のこと、日本のこと～



アイスランド共和国 特命全権大使
トーフリður・アイギル・オスカーソン閣下

アイスランドの経済基盤は漁業、水力・地熱エネルギーといった自然エネルギー、そして人的資本です。

人口が少ないので、人材を上手く活用しなければなりません。労働人口が多いのも特徴で、女性の8割が外で働いています。1976年まで開発援助を受けていた我が国が、短期間でGDPが世界5位という水準にまで進歩した理由の一つは、女性解放により進んだ女性の経済活動への参加が挙げられるでしょう。男性の意識改革も進み、約8割の父親が有給で産休や育休を取っています。その結果、女性を取り巻く環境は非常に大きな進歩を遂げ、女性議員の割合は33%と比較的高くなっています。



ウルグアイ東方共和国 特命全権大使
アナ・マリア・エステベス閣下

ウルグアイは社会的には男女平等ですが、文化的背景や偏見が根深いため男女間の格差が残っています。

例えば、女性の国会議員は全体の10.8%未満で、DV被害者の86%が女性です。秘密裏に行われる中絶によって女性の健康が危険にさらされている実態もあります。それに対し政府は「人権の保護は社会のあらゆるメンバーに提供される」という旗印を掲げ、社会的・経済的な格差対策の一つとして男女共同参画の政策を打ち出しました。2007年には男女の機会均等推進のための法律を制定し、執行機関として女性局を設け、ジェンダーの視点をあらゆる政策に盛り込むこととしています。

世界の“大使が語る、日本の今”

——— もっと知ろう世界のこと、日本のこと ———



パネルディスカッション

下村館長 | 今回のように、一国を代表する大使をお招きするのは初めてのことです。おいでいただいた全大使に改めて御礼を申し上げたいと思います。さっそくですが、DVに関して、女性を保護するシェルターのような施設はあるのでしょうか。



エステベス大使 | NGOがシェルターを提供しています。DVは法的に犯罪として規定されており、警察はまず暴力を振るう夫を家の外に出します。

オスカーソン大使 | DVに関する法的な措置、また、組織やカウンセリングセンター、保護施設もありますので、夫からの暴力という犯罪行為に対処できるようになっています。

ジャル大使 | シェルターはありませんが暴力行為があった場合、被害女性は保護されますし、支援団体もあります。しかし、法的には夫を告訴することができても、実際にはなかなかできないのが現状です。

タン大使 | DVが起きた場合、女性憲章に基づき裁判所から保護命令が出されます。加えて、民間団体による支援活動などの被害者支援がなされています。

下村館長 | 日本では、これまでDV被害者がその被害を申し立てずに我慢する傾向が強かったのですが、最近はそのが変わってきました。

ところで、ウルグアイのエステベス大使にお聞きしたいのは、女性の政界への進出が進まないことについて「女性は野心を持たない」と言われているとのことでしたが、この事に関しては、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

エステベス大使 | それは、一部の政治家が、クオータ制を設けたくない理由として使っている言葉です。機会の平等はあるのだから、あとは本人の努力次第であり、女性にだけ政治的な地位を提供するのはフェアではないという考えです。しかし、実際は、女性が上に行くというのは簡単ではありません。

下村館長 | 日本も同じだと思います。女性の政治参画や社会進出について各国の事情はいかがでしょうか。

エステベス大使 | 政治的な野心を持つか持たないかとい



シンガポール共和国 特命全権大使
タン・チンティオン閣下

シンガポールでは、常に女性が社会の重要な役割を果たしてきました。1959年に制定され1966年に

改正された女性憲章は女性の社会参画を促し、夫婦同権が保障されました。また、少子化の進行に伴い女性の労働力が重要性を増したため、働く女性の税制優遇措置も設けました。今日では、出産後も社会復帰する女性やビジネス界のトップで活躍する女性が増えましたが、女性議員の割合は全体の21%に過ぎません。儒教の教えが強いため伝統的な女性の役割という意識が残っている面があります。その中で、家庭と仕事を両立したいという意思を持つ若い世代の女性達が、国の発展に重要な役割を果たすでしょう。



マリ共和国 特命全権大使
ギセ・マイムナ・ジャル閣下

マリは就業人口の46.1%が女性です。その他に、雇用契約を結ばずに働いている女性が数多くいま

す。1997年以降、政府は女性解放を促進し、女性の地位向上を目的としたプログラム、特に農村地帯の女性に対する教育の機会を増やし、起業家精神育成のための資金貸付制度を設けました。政治分野における女性の参画も進めており、現在、国会議員147名中15名、中央官庁の大臣27名中7名が女性で、私を含め3名の女性大使がいます。これまで家父長制度のもと、妻は夫の所有物という考えが伝統でしたが、最近では、女性たちが教育・健康・労働・福祉に対して自分たちの権利を主張し始めています。

2008年3月15日に、アイスランド共和国、ウルグアイ東方共和国、シンガポール共和国、マリ共和国の大使閣下をお招きし、それぞれの国の文化や生活、社会における女性の地位等についてお話いただきました。また、パネルディスカッションでは、DV、女性の政治参画、仕事と家庭の両立や夫婦・結婚の在り方について、意見交換を行いました。



うのは、男女とも同じであり、性別によって違うということはないと思います。問題なのは、活躍したいのに手が届かないと諦めてしまっている女性がいることです。

アイスランド大使 | アイスランドでは1978年に、初の女性大統領が誕生しました。その後政治の場で、No.2として活躍する女性は増えましたがトップにはなりません。誰かが突破口を見だして上に行かなければなりません。

シンガポール大使 | シンガポールでは、意識的に「女だからトップに行け」とは言いません。能力があれば自然に出てくるものだと考えています。

ジャル大使 | アフリカの女性には、文化的・宗教的な背景による圧力や、就学率や識字率が低いという実態があります。さらに、多くの子どもを育てながら、社会でも活躍することは難しいというのが現状です。しかし、最近では女性も政治参加するようになり、政府は各党に女性議員を増やすように促しています。

下村館長 | 家事や育児をしながら、かつ社会で活動することは大変だというお話がありましたが、日本の女性が抱える問題に通じるところがあると思います。日本では結婚すると妻が夫の姓に変えることが一般的ですが、その辺はいかがでしょうか。

アイスランド大使 | アイスランド人の姓は、父親の名前に息子の場合はson、娘はdottir(英語のdaughter)をつけたもので、もちろん結婚しても姓が変わることはありません。

タン大使 | 妻が夫の姓を取ることが多いのですが、選択の自由はあります。

ジャル大使 | 夫の姓を取りますが、旧姓を持ち続けることが可能です。ムスリム(イスラム教徒)は一夫多妻制なので、男性には4人の妻を持つ権利があります。最初の結婚の時に、夫婦間で一夫多妻制か一夫一婦制かを決めるのです。最近では一夫多妻制に反対する動きも出てきました。

下村館長 | 国によって歴史的背景や経済状況が異なりますから、一概に、遅れているとか進んでいるとかいうことは正しいことではなくて、複眼的な視点を持つことが大事なのだろうと思います。

大使の皆さま、そして会場の皆さま、今日はありがとうございました。特に大使の方々に感謝を申し上げたいのは、率直に、また正直に、たくさんのことを語っていただいたということで、本当にありがとうございました。

アイスランド共和国 特命全権大使

トール・アイギル・オスカーソン閣下

県内視察
いわき方面

3月14日（金）、今回の未来館シンポジウムのために、アイスランド共和国 特命全権大使 トール・アイギル・オスカーソン閣下がご来県になりました。大使は、日本の様々な土地をご訪問なさっていますが、初の東北入りだったそうです。シンポジウム前日は、いわき市立植田中学校でご講演なさるため、いわき市をご訪問になり、その後アクアマリンふくしま、いわき絵のぼりの「滝根庵」をご覧になりました。



▲いわき市立植田中学校にて



▲ご講演のあと、生徒の皆さんとのプレゼント交換も行いました

植田中学校

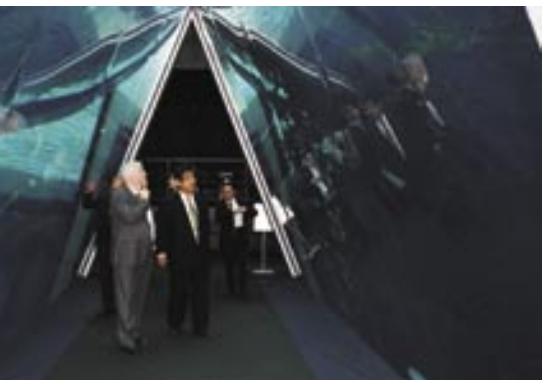
いわき市立植田中学校では、大使が生徒の皆さんに講演され、アイスランドの国内の状況全般についてご紹介いただきました。講演会は1年生が中心となって企画・運営し、当日の進行も英語で進めていました。生徒の皆さんは、特に環境問題の取り組みについて興味深く聞き入っていました。大使への質問は、アイスランドのおいしい食べ物などの身近なテーマから、地球環境や世界平和などのグローバルなテーマまで、幅広く全て英語で質問していました。今回の講演に対する生徒の皆さんたちの関心の高さが伺えました。

植田中学校から大使へお礼のプレゼントが贈られると、大使からも、生徒の皆さんへのプレゼントが贈られ、皆さん大変感激していました。

IWAKI

アクアマリンふくしま

「環境水族館」アクアマリンふくしまでは、安部館長とご懇談になったあと、館長の案内で館内をご視察なさいました。潮目の海を表現した展示や、シーラカンス、子供たちが体験して学べるキッズアクアリウムなどをご覧になり、大使は、アイスランドにも水族館はあるが、展示されている内容は全く異なると、おっしゃっていました。アイスランドも、暖流と寒流が交差する地域で、鯨を食す文化があるなど、福島県と共通するところも多く見られますが、海を取り巻く文化には大きな違いも見られるようです。



▲アクアマリンふくしま 安部館長の案内でご視察になりました

いわき絵のぼり

いわき市泉町にある工房「滝根庵」では、県指定伝統的工芸品「いわき絵のぼり」の制作をご覧になりました。いわき絵のぼりは、端午の節句などに飾るのぼり旗で、勇壮な武者絵などを描くのが主流で、全国的にも手書きの職人が減少しているそうです。アイスランドでは、日本の「子どもの日」のような行事は設けられていないとのこと、絵のぼりそのものや、日本の風習についても質問していらっしゃいました。滝根庵から大使へ絵の記念品が贈られ、大使は大変お喜びのご様子でした。



▲いわき絵のぼりの工房「滝根庵」にて



▲安部館長とご懇談の様子

レセプション



シンポジウム終了後、3月15日（土）18：00より、岳温泉「陽日の郷あづま館」にてレセプションを開催しました。4カ国の大使と佐藤知事をはじめ県内の関係者や女性団体の皆さんがご出席くださいました。会場では、国指定重要無形民俗文化財「石井の七福神と田植踊」が披露され、各国大使は日本の伝統芸能をご堪能なさいました。また、ロシアのサンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団第一バイオリニスト、グレゴリー・セドフさんがピッコロバイオリンを特別に演奏してくださいました。

未来館
国際シンポジウム

ウルグアイ東方共和国 特命全権大使 アナ・マリア・エステベス閣下

県内視察
会津方面

3月16日(日)、ウルグアイ東方共和国 特命全権大使 アナ・マリア・エステベス閣下、ペロニカ・マヤ・ムヒカ・エステベス令嬢、大使館職員中尾啓子氏(通訳兼)が、二本松市内で「二本松工芸館・田中家具」会津若松市内で「野口英世青春館」「鶴ヶ城」「料理旅館・田事」「会津漆器・坂本乙造商店」「末広酒造・嘉永蔵」をご視察なさいました。



▲二本松の伝統工芸、家具をご覧になり、細部まで手の込んだ作りに感嘆していらっしゃいました



▲野口英世青春館館長による、英世の功績等についての説明に聞き入っていらっしゃいました



▲会津の郷土料理を召し上がりました



▲先進的なデザインの会津漆器をお楽しみになりました

二本松工芸館

ご友人に勧められたとのことで、急遽見学へ。引き出しを押し入れると別の引き出しが空気圧で押し出されるほどの精巧な作りと素晴らしい漆塗りの技術等、伝統工芸に触れられ、大変お気に召したようでした。

野口英世青春館

大変ご興味をお持ちになり、照島館長による、生い立ちと功績についての説明に熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

田事

会津の伝統食をお楽しみになりました。山菜わっぱ飯と鮎を喜んで召し上がっていらっしゃいました。鮎は宮内庁の招待で長良川で召し上った事があり、とても気に入っていらっしゃるとのことでした。

また、店オリジナルのトウモロコシ豆腐も気に入られた様子でした。

坂本乙造商店

会津漆器の装飾品や創作品、独自のデザインの衣料品の展示はお気に召したようで、イヤリングとペンダントのセットをご購入なさいました。皆さまそれぞれにアクセサリや衣類を身につけ、ミニファッションショーを楽しんでいらっしゃいました。

嘉永蔵

日本酒の製造工程の説明を興味深げにお聞きになっていました。見学後の試飲では何種類か試されましたが、軽く、甘めの物がお好みようです。ペロニカさんは特に、強めのお酒がお気に入りのようでした。

鶴ヶ城

大使は、刀剣や鎧甲、白虎隊の肖像画などの多くの展示品や、城内の会津塗りなど、職人の優れた技巧がほどこされた民芸品を熱心にご覧になっていました。大使は、前日レセプションでご覧になった「七福神」のお面がお気に召したようで、ご購入なさいました。



▲鶴ヶ城を見学 城内の民芸品の展示がお気に召したようでした。

AIZU



石井芸能保存会による国指定重要無形民俗文化財「石井の七福神と田植踊」



世界で唯一のピッコロバイオリン
奏者、グレゴリー・セドフさん
演奏曲目 ビゼーの「カルメン」
よりドン・ホセのアリアなど



3月16日(日)、シンガポール共和国 特命全権大使 タン・チンティオン閣下、モーリーン・タン令夫人、イーサン・チュアー等書記官、塩見一子インフォメーションアシスタント(通訳担当)の4名が、会津若松市内で「鶴ヶ城」と「御薬園」をご視察なさいました。



▲国指定名勝庭園「心字の池」を背景に

鶴ヶ城

大使は、日本の歴史にご興味をお持ちで、刀剣や戊辰戦争時の鶴ヶ城の写真など、多くの展示品に興味深くご覧になりました。

また、城内の会津塗りなど、会津職人の優れた技巧がほどこされた民芸品を熱心にご覧になっていました。特に、モーリーンさんは、「起き上がり小法師」がお気に召したようで、シンガポール大使館の皆さんへのお土産として、たくさんご購入なさいました。



▲起き上がり小法師に興味津々のご様子

御薬園 (おやくえん)

御薬園内の、秩父宮妃殿下ゆかりの「重陽閣 (ちょうようかく)」にて、会津の郷土料理を召し上がりになられました。大使ご夫妻は、お吸い物の具材に使われていた会津人参 (おたねにんじん：朝鮮人参) に興味を持たれたようで、御薬園の売店でも標本等をご覧になりました。

お食事の後、今から約300年前に作られた木造数寄屋造りの「御茶屋御殿 (おちやごてん)」で、裏千家会津石州流 (お手前指導：佐々木初子さん) の作法により、お茶を体験なさいました。大使ご夫妻は、大変満足していらっしゃいました。



▲会津の歴史に触れられました



裏千家会津石州流で茶道を体験なさいました▶

▼会津のシンボル「鶴ヶ城」を背景に



AIZ

名刺交換会の様子



15日(土)シンポジウム開会前、大使と佐藤知事、遠藤議長との名刺交換会・記念品贈呈が行われました。

各国紹介パネル展示

館内は、4カ国を紹介するパネルや写真などの展示や国旗などの装飾で飾られました。



3階交流展示スペース

1階エントランスホール

3月14日（金）、天候はあいにくの雨でしたが、郡山駅でマリ共和国 特命全権大使ギセ・マイムナ・ジャル閣下をお迎えしました。



▲「野口英世青春通り」を歩いていただきました



▲万年筆や時計など様々な製品に漆を施す技術に感心していらっしゃいました



▲スノーモービル初体験！



▲雪の上を歩くことが大変そうでした

訪問先は、坂本乙造商店、野口英世青春館、会津鶴ヶ城、県立博物館などで、会津若松市内を中心にご視察なさいました。マリ共和国では雪が降らないため、雪が大好きとおっしゃる大使は、郡山市から会津若松市へ向かう車中からの雪景色を大変楽しんでいらっしゃいました。

坂本乙造商店

伝統工芸である会津漆器を大変興味深くご覧になりました。漆をさまざまな製品に加工する技術には大変感心していらっしゃいました。



▲「鶴ヶ城」にて

会津鶴ヶ城

ボランティアの方の案内で、お城の周りを歩きました。地元の方ならではの会津の歴史にまつわるお話を聞きながらの視察となりました。城内の植木には冬囲いが施されていましたが、大使はその光景に非常に興味をお持ちになっていました。

その日の宿泊先は裏磐梯で、夕食には会津の郷土料理を召し上がりました。大使はお寿司など日本食もよく召し上がるそうで、会津郷土料理も喜んでいただきました。

裏磐梯はまだ多くの雪に覆われていましたが、前日とは打って変わって晴天に恵まれました。裏磐梯では桧原湖、五色沼をご覧になりました。桧原湖では氷と雪に覆われた湖上で釣りをしている様子を、また、五色沼では雪の上を歩いていただきながら、雪に覆われた五色沼をご覧になりました。青空に磐梯山が映え、すがすがしい気持ちで会津を後にしました。

今回の視察の間、大使はマリ共和国の教育制度、盛んなスポーツ、食生活などについて、お話しくださいました。終始和やかな雰囲気でご視察を行うことができました。

シンポジウム参加者の声

- 世界から見た日本の状況を知ることができた。学生である僕らにも、十分深く考えることができるテーマだった。本当に来て良かったと思う。(10代・男)
- 各国の国民ひとりひとりが男女互いに尊重しあい、女性ももっと積極的に社会参加をすることが大切だと感じました。(10代・女)
- 時間が短く感じられるほど楽しい時間でした。(20代・女)
- 各国の話が聞けて大変勉強になった。日本の常識は、他国では非常識かも知れない。視野が広がりました。(30代・男)

- 多様性について考えさせられた。(40代・男)
- 国によって制度や意識が違うことが分かり、別の視点から日本を見ることができた。(50代・女)
- 初めて参加しましたが、本などを読むのと違い分かりやすい言葉で世界の事が理解できました。(60代・女)
- 世界各国の大使の話を直接聞く機会など、なかなかないと思います。各国の取り組みがよくわかり参考になりました。(70代・男)



平成20年度調査研究事業決定のお知らせ

【地域課題委託調査研究】

テーマ「会津若松市における男女共同参画推進活動に関する課題とその解決方法について」
調査研究者 特定非営利活動法人会津NPOセンター 理事長 吉田淳一

テーマ「農村における女性のワークライフバランスに関する調査研究
ー女性労働とグリーンツーリズムの推進に着目してー」
調査研究者 高橋英子 共同研究者 朴 賢淑

【公募研究】

テーマ「『外国人研修・技能実習制度』にかかわる男女平等の労働環境構築のための『アクションプラン』策定と派遣国の実態把握に関する国際比較・調査研究」
研究代表者 福島大学行政政策学類 准教授 坂本 恵

お問い合わせ 企画調査課 TEL0243-23-8303

福島県男女共生センター研修室・宿泊室のご案内

当センターには、一般利用が可能な研修室（人数に合わせて選択可）・
宿泊室（最大50名まで宿泊可）がございます。

利用料金等は当センターホームページかお電話でお問い合わせください。TEL0243-23-8301

未来館フェスティバル「大参画祭」開催決定！

シンボルイベント「みんなで語ろう！『21世紀の人生の歩き方』」
・「リーダーシップ111」メンバーによる、生き方・働き方等をテーマとしたトーク

県民による自主企画

ほかにも、アトラクションや屋台村など楽しいイベントがいっぱいです
お問い合わせ 事業課 TEL0243-23-8304

※「リーダーシップ111（ワンワンワン）」とは

1994年9月21日に、当センター下村満子館長（当時、朝日新聞編集委員）が、企業、
官庁、マスコミ、医学界、法曹界、学術界、NPOなどの各界で活躍する60人の女性リ
ーダーたちとともに発足させた会です。



9/6(土)
9/7(日)

未来館

News

“自分らしさ”を生かした未来へ

2008.7
No. 32

■編集・発行 「未来館NEWS」

(財)福島県青少年育成・男女共生推進機構

福島県男女共生センター～女と男の未来館～

〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1

TEL(0243)23-8301(代) FAX(0243)23-8312

ホームページアドレス <http://www.f-miraikan.or.jp>

メールアドレス mirai@f-miraikan.or.jp



アクセス
 ■ JR東北本線 二本松駅より徒歩12分
 ■ 東北自動車道 二本松ICより車で5分



この広報誌は、
環境にやさしい大豆インキを使用しています。